

【事業実績】

1 歴史文化遺産群の観光の視点からの価値魅力の顕在化〈顕在化〉

① 設定テーマ「聖徳太子伝説を追う」を観光資源として発信する媒体の制作〈媒体制作〉

リーフレット「鈴鹿山麓の聖徳太子」を5,000部発行し湖東エリアの観光施設や博物館に設置した。また、鈴鹿山麓混成博物館HPから電子媒体を発信した。(URL://suzuka-sanroku.com/)

【成果・効果】聖徳太子を軸に地域の歴史文化遺産を関連づけて示し、社会資源としての価値を高めた。

② 設定テーマ「寺院と城郭」に基づく連携展「寺院と城郭」の開催〈連携展〉

会場：多賀町立博物館（あけぼのホールギャラリー）会期：1/26～3/19（32日間）パネル40枚

【成果・効果】観覧者数955人。異なる歴史文化遺産（寺院と城郭）について新たなストーリーを示した。

※湖東エリア内の公共施設での連携展示を計画していたが、コロナ禍でスケジュールを確定できない状況となり、多賀町立博物館のみでの開催となった。

③ 設定テーマ「寺院と城郭」に基づく連携フォーラム「城の3密」の開催〈連携フォーラム〉

会場：多賀町中央公民館「多賀結いの森」ささゆりホール 日程：2/20 13:30～16:30 講師3名による講演

【成果・効果】参加者数89人。アンケート結果から、参加者の設定テーマへの理解・関心が深まり、現地探訪の意欲（観光客誘致へのポテンシャル）が高められた。

＜アンケート結果＞回答者数62人（回答率70％） わかりやすい内容でしたか？はい53人（84％）

講演を聞いて足を運んでみたかった場所がありましたか？はい47人（75％）

・参加者の声（アンケートより）・・・寺院と城郭との関係がよく分かり大変良かった。山城のルーツについて面白

く聞かせていただいた。あつという間の3時間でした。やはり近江の歴史は面白い！

④ 設定テーマ「寺院と城郭」に基づくヘリテージ観光モデルツアー（2回）の開催〈ヘリテージツアー〉

ヘリテージツアー①「攻略！山上の要塞」（11/28～29）参加者数：13人、

ヘリテージツアー②「知られざる近江の名城を歩く」（3/6～7）参加者数：15人

【成果・効果】地域の歴史文化遺産の活用に係る具体的なモデルを示し、観光利用に向けた機運を高めた。

・参加者の声・・・講師の案内で分かりやすくよく理解できた。聖徳太子近江韓流膳（歴史文化メニュー・レシピの制作発信で創作）は、地域色が生かされていて良かった。

⑤ これまでに扱ったテーマの中からトピックを取り上げ、わかりやすくまとめた媒体（リーフレット2種）の製作〈鈴鹿シート制作〉

鈴鹿シート①「せめぎあう岩と水湖東流紋岩」を5,000部、鈴鹿シート②「地球の歴史を秘めた白き岩」を5,000部、それぞれ発行し湖東エリアの観光施設や博物館に設置した。また、鈴鹿山麓混成博物館HPから電子媒体を発信した。(URL://suzuka-sanroku.com/)

【成果・効果】取り上げたトピックについて地質学などとも関連付け新たな側面を示し、社会資源としての価値を高めた。

2 ヘリテージコンシェルジュの養成〈人材育成〉

湖東エリアの歴史文化遺産群（鈴鹿山麓の寺院と城郭：38件）について、ガイドに求められる知識を体系的にまとめたテキストを作成し、鈴鹿山麓混成博物館HPから電子媒体を発信した。(URL://suzuka-sanroku.com/)

【成果・効果】ガイドのためのテキストを広く発信することで、ヘリテージコンシェルジュの裾野を広げる働きかけができた。

※ヘリテージコンシェルジュ養成講座を計画していたがコロナ禍で講座形式（対面）の事業実施が難しい状況となったため、テキストの作成と発信に取り組んだ。

3 設定テーマ「聖徳太子伝説を追う」、「渡来人と湖東の文化」に基づいた歴史文化メニュー・レシピの制作発信〈メニュー〉

当年度は、東近江市の3地区において地域の人材、地域の食材と地域の歴史文化に関連するトピックを結び付け、3種類のメニュー・レシピを制作・発信した。

創作メニュー①「聖徳太子近江韓流膳」（東近江市旧愛東町地区）

創作メニュー②「聖徳太子の里御膳」（東近江市旧湖東町地区）

創作メニュー③「近江万葉浪漫の膳」（東近江市五箇荘地区）

・リーフレット「風土を味わう Vol.2 聖徳太子と万葉浪漫」を2,000部発行し湖東エリアの観光施設や博物館に設置した。

また、鈴鹿山麓混成博物館HPから電子媒体を発信した。(URL://suzuka-sanroku.com/)

・ヘリテージツアーで（2回：ヘリテージツアー②「知られざる近江の名城を歩く」、東近江市観光協会事業「秘佛対面美佛拝顔」）創作したメニューの食事を提供した。

【成果・効果】地域の歴史文化について、食に関連づけて新たな価値を創出した。

・参加者の声（お披露目会）・・・手間のかかった地域愛のこもったメニューが生まれてうれしいです。活用させていただけるように知恵を絞ります。

令和2年度事業実施状況写真

事業名称：歴史文化遺産の社会資源化事業

実行委員会：鈴鹿山麓混成博物館



3<メニュー> 創作メニュー②「聖徳太子の里御膳」
マスコミお披露目（製作者からの説明）
令和3年1月22日 こもれ日小田莉家（滋賀県東近江市）



1-④<ヘリテージツアー> ヘリテージツアー①「攻略！山
上の要塞」
飯道寺跡見学（令和3年11月28日～29日）
令和2年11月29日 飯道神社（滋賀県甲賀市）



1-③<連携フォーラム> 連携フォーラム「城の3密」
小林裕季氏講演「山と城の密な関係」
令和3年2月20日 多賀結いの森ささゆりホール
（滋賀県多賀町）



3<メニュー> 創作メニュー①「聖徳太子近江韓流膳」
マスコミお披露目（ケーブルテレビによる撮影）
令和2年12月22日 ほんなら家（滋賀県東近江市）



3<メニュー> 創作メニュー③「近江万葉浪漫的膳」
マスコミお披露目（製作者からの説明と新聞3社の取材）
令和3年3月5日 納屋孫（滋賀県東近江市）



1-④<ヘリテージツアー> ヘリテージツアー②「知られざ
る近江の名城を歩く」（令和3年3月6日～7日）
お鍋の方（信長側室）屋敷跡見学
令和3年3月6日 高野館跡見学（滋賀県東近江市）



1-②<連携展> 連携展「寺院と城郭」
令和3年1月26日～3月19日
多賀町立博物館（滋賀県多賀町）

令和 2 年度事業掲載記事

3 〈メニュー〉 創作メニュー①「聖徳太子近江韓流膳」

令和 2 年 12 月 23 日 京都新聞

第3種郵便物認可

京

第3

地元食材を使った品が並ぶ「聖徳太子近江韓流膳」。左の緑色の角皿に盛られたのが百済寺に伝わる料理

東近江などの観光団体

22年、没後1400年

ゆかりの食材で 聖徳太子韓流膳

聖徳太子没後1400年とされる2022年に向け、東近江市など2市3町の観光団体などをつくる団体「鈴鹿山麓混成博物館」事務局が22

日、太子が食したと伝わる食材を活用した「聖徳太子近江韓流膳」を披露した。地元産の野菜や食品を生かしたお膳は、来年3月6日に東近江市観光協会が企画する歴史ツアーのランチで提供される。

文化遺産の発信も

料理の素材を説明する監修の山本さん（東近江市小倉町）

県内に200カ所以上ある太子ゆかりの文化遺産を発信しよう、同事務局が企画した。遺跡巡りと食を組み合わせて滞在時間を増やし、観光資源にしていく狙いだ。太子がめでたとされる太子

県内に200カ所以上ある太子ゆかりの文化遺産を発信しよう、同事務局が企画した。遺跡巡りと食を組み合わせて滞在時間を増やし、観光資源にしていく狙いだ。太子がめでたとされる太子

芋をつぶして揚げ、あんをかけた一品は、サトイモの柔らかさとほんのりした甘みが特徴だ。太子建立といわれる百済寺（東近江市）に伝わる「葱祈禱料理」も取り入れ、たつきゴボウなどに自らタカノツメとミカンの皮で作った唐辛子を振りかける。郷土料理の「丁字麩」や韓国料理のチヂミも並ぶ。

料理を監修した地元のレストラン店長山本弘子さん（65）は「東近江市百済寺本町」は「食べやすさ」を考え、優しい味付けにした。チヂミには琵琶湖のスジエビを入れ、太子と関わりがある韓国も意識した」と明かす。

今後、随時提供の機会を検討していく。問い合わせは東近江市観光協会0748（29）3920。（長谷川穂）

令和2年度事業掲載記事

3 〈メニュー〉 創作メニュー①「聖徳太子の里御膳」

令和3年1月23日 中日新聞

R3.1.23

中日新聞

晨报

(第3種郵便物認可)

東近江・聖徳太子ゆかりランチ

第2弾は 「里御膳」

伝承から焼き芋や芋煮、納豆素揚げ

来年の聖徳太子薨去千四百年に合わせて観光客らに提供するランチ「風土(フド)を味わう」シリーズの第二弾「聖徳太子の里御膳」が完成し、二十二日、東近江市湖東地区で関係者にお披露目された。

(斎藤航輝)

3月のツアーで提供へ

市や愛荘町、多賀町の公立博物館でつくる任意団体「鈴鹿山麓混成博物館」が企画し、県安土城考古博物館(近江八幡市)の元副館長大沼芳幸さん(66)がアド

バイザーを務めた。

お披露目は、東近江市愛東地区の「近江韓流膳」に次ぐ二品目。築百五十年の古民家を改修して食堂やサロンを営むNPO「こもれ日小田刘家」(同市小田町)の井田久美子代表(63)の協力を受け、創作した。

平安時代の書物「聖徳太子伝暦」には、煮物料理や果物のもてなしに喜んだとの伝承があり、地元産のサトイモ「太子芋」の焼き芋や芋煮を中心に、甘味も添えた。納豆にまつわる伝承に基づき、粒の大きい「湖東大豆」を使った納豆の素揚げも作った。

芋煮会で知られる山形県出身の大沼さんは「聖徳太子の時代にはしょうゆがなかったので、自家製のみそ

で味付けしてあるが、味はいい」と太鼓判を押した。

御膳は、三月に予定されているツアーで提供される。東近江市観光協会0748(29)3920

節分の豆まき用

こども園に大豆

彦根の物流企業

多賀

一月の節分の豆まきに使用してほしいと、物流業のイーマックス・サプライ(彦根市)が二十二日、多賀町の大滝たきのみやこども園に大豆をプレゼントした。

同社では新事業として農業も行っており、自社で栽培



豆まき用の大豆を受け取る大橋園長(左)と多賀町の大滝たきのみやこども園で

令和2年度事業掲載記事

3 〈メニュー〉 創作メニュー①「近江万葉浪漫の膳」

令和3年3月6日 中日新聞

星

(第3種郵便物認可)

舌で味わう「万葉集」

「鈴鹿山麓混成博物館」が膳企画

東近江・料亭「納屋孫」で披露

東近江地域が舞台とされる「万葉集」に登場する調理法や食材を用いた料理「近江万葉浪漫の膳」が完成し、メニュー開発を手掛けた東近江市五個荘川並町の料亭「納屋孫」で五日、関係者に披露された。月内に開催予定の観光ツアーの夕食で振る舞い、地域の歴史を食で発信する。

(斎藤航輝)



「近江万葉浪漫の膳」を披露する関目さん（左）ら＝東近江市五個荘川並町の納屋孫で

令和の由来となった万葉集への関心の高まりを受け、同市と愛荘町、多賀町の公立博物館などをつくる任意団体「鈴鹿山麓混成博物館」が企画。江戸中期には開業していた、歴史ある料亭に協力を依頼した。万葉集には「タイの造り

をひしおとノビルをあえたソースにからめて食べた」との調理法を示す歌と、食材になる動植物が出てくる歌が四十ほどある。今回は「早春ハーシジョン」

フナを金山寺みそ、酢、ノビルのソースであえて再現。氷魚やイノシシ肉、カブラや菜の花といった県産食材は薄味に仕上げ、平安時代の大饗料理のように藻塩や酢などをかけて食べる。店主の関目正樹さん（六四）

は、当時はしょうゆを使わず、調理法も焼くか蒸すかのどちらかだったことから「どうしたらいいかと苦労した」。それでも、しょうゆ代わりに大徳寺納豆を活用するなど「できる限り昔の形を基にアレンジした。現代の人にも喜んで食べもらえる」と胸を張った。

監修した県安土城考古博物館の元副館長大沼芳幸さん（六四）は、万葉集で詠まれている食材をデータベース化して地域の料理人に公開することで、「それぞれでアレンジをして『万葉料理』を作ってもらい、万葉の舞台を訪れた人に提供できれば」と期待した。

調理に手間がかかるため、事前に予約のあった団体客のみに提供する。観光ツアーは募集を締め切っている。

結婚おめでとう
敬称略

◇彦根 浅井真輝・木村幸

令和2年度事業広報記事

1-④〈ヘリテージツアー〉ヘリテージツアー②「知られざる近江の名城を歩く」

令和3年2月25日 滋賀報知新聞（広告欄 1/2）

鈴鹿山麓混成博物館ヘリテージツアー2021

知られざる近江の名城を歩く

百済寺城北谷 高野館 和南城 佐久良城 小川城

〈探訪する城〉

3月6日(土) 百済寺城北谷 (東近江市百済寺町)

広大な百済寺境内の北側、岩上神社の背後に展開する郭群。
中世の庭園の跡を残す奇跡の空間。

高野館 (東近江市永源寺高野町)

愛知川と八風街道を望む段丘上に築かれた石垣の城。
信長の側室「お鍋の方」が暮らしたという伝承も伝わる。

和南城 (東近江市和南町)

信長も通ったという千草街道を扼する城。
巨岩を使った虎口、圧倒的な土木量を費やした縄張が見所。

●宿泊講座

「何故寺に城が築かれるのか」

講師：大沼芳幸氏

〈行程〉

3月6日(土)

10:00 JR能登川駅集合 — 百済寺城北谷 — 昼食（聖徳太子近江轉流膳）— 高野館 — 和南城 — 講座と夕食 永源寺高野町 八風の湯 — 宿泊 八日市ロイヤルホテル

3月7日(日)

9:40 宿舎発 — 佐久良城 — 昼食 信楽 創作割烹一水庵 黒毛和牛すき焼き — 小川城 — 新名神高速道路経由 — 16:00 JR大津駅解散

〈旅行代金〉

全行程 **36,000円** *シングルルーム利用の方は2000円追加となります。

1日目のみ **18,000円** (昼食・夕食・講座を含む)

2日目のみ **12,000円** (昼食を含む)

〈定員〉 **25名** (最少催行人員10名) 随時募集

※新型コロナウイルスに対する対策を講じて開催しますので、マスクの着用・手指消毒などへのご協力をお願いします。

※新型コロナウイルス感染症が拡大した場合、旅行を中止する場合があります。

3月7日(日) 佐久良城 (日野町佐久良)

蒲生氏の一族、小倉氏の居城とされる。
壮大な土木量を投入した、見る者を圧倒する典型的な土づくりの城。

小川城 (甲賀市信楽町小川)

山上に造られた郭群で、安土城天守に先立つ地下構造を持った櫓が残る。
「神君伊賀越え」にも関連したとされる。

●同行解説講師 **大沼芳幸** (元滋賀県立安土城考古博物館副館長)



聖徳太子近江轉流膳



百済寺城北谷



高野館

旅行企画 **鈴鹿山麓混成博物館** 旅行主催 (一社)東近江市観光協会 TEL 0748-29-3920
お申し込み E-Mail higashiomi-tabi@e-omi.ne.jp